

と、また、地域支援事業については、広域連合が保有する介護情報などのデータの利活用が十分行われておらず、地域特性に沿った効果的な事業展開が十分行えていないことなどを課題としてあげています。一方、鈴鹿市単独であれば、データに基づく地域特性や課題を把握し、実情に沿ったサービスを迅速かつ効果的に創出・提供できるなどの利点をあげています。

これらのことなどから、広域連合については、解散も含めた抜本的な見直しが不可欠であると結論付けましたが、見直しの際には、費用対効果の検証や、サービス利用者および事業所に不利益が生じないように、十分検討する必要があることも確認されました。

また、これらの内容を提言書としてまとめ、調査報告書とともに3月25日、議長から市長へ手渡しました。

調査報告書および提言書は、市議会ウェブサイトに掲載しています。また、Youtubeで特別委員会の録画配信を行っています。ぜひご覧ください。



調査報告書



特別委員会  
YouTube



提言書

## 第14回議会報告会を開催しました



令和7年2月2日に、鈴鹿医療科学大学白子キャンパスにおいて、第14回議会報告会を開催しました。今回も昨年度に引き続き広聴に重点を置き、大学生を中心とした若者世代を対象に「鈴鹿の現在と未来について語ろう～住みやすいまち・住み続けたいまちとは～」をテーマにして、議員とのワークショップ（意見交換会）を実施しました。

当日は、鈴鹿医療科学大学や鈴鹿大学などの市内・近隣市の大学の学生40名の参加があり、参加申込時のアンケートに基づき設定したテーマ別に8つのグループに分かれ、鈴鹿市の良いところ・足りないところや未来の姿について語り合いました。参加者からは、子育て、スポーツ、教育、交通や都市の環境、防災、地域づくりなどについて、若者ならではの貴重なご意見をお伺いすることができました。

皆さまから頂いたご意見は、今後の議会活動の参考にさせていただくことはもちろんですが、3月24日に執行部に対して実施結果の情報提供を行い、市職員に情報共有していただくとともに、今後の施策検討の参考としても活用いただくよう願いました。

議会報告会の実施結果（アンケート結果含む）は、市議会ウェブサイトに掲載しています。ぜひご覧ください。



実施結果



ワークショップの様子